Weekly ウィークリー オイル マーケット レビュー
Oil Market Review 22第26号
2022年（令和四年） 10月7日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所 石油情報センター
電 話 （03）3534-7411（代）
F A X （03）3534-7422
〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カチドキ11階
ホームページ https://oil-info.ieej.or.jp

■ 概況

9/22～9/28のNYMEX・WTI先物市場は、76.71～83.49ドルの範囲で推移した。

9月29日は、世界的な利上げによる景気後退懸念の拡大、メキシコ湾のハリケーン襲来による操業停止の数日以内の操業再開観測、米国株価低下に伴うリスク回避、ドル高進行による原油先物の割高感等により、3営業日ぶりに反落した。ただ、来週のOPECプラス協議の減産観測が底値を下支えした。11月限の終値は前日比0.92ドル安の81.23ドル。

週末30日は、朝方、OPECプラスの減産観測で堅調に推移したものの、OPECの8月産油量が前月比21万b/d増の2981万b/dと2020年4月以来の高水準となったとの報道で軟化し、月末・週末の持ち高調整の売りもあり続落、節目の80ドルを割った。11月限の終値は前日比1.74ドル安の79.49ドル。

週明け3日は、5日開催予定のOPECプラス閣僚協議で、最近の原油価格低下に対応するため、100万b/d以上の減産を検討するとの観測報道があり、大幅に反発した。外為市場におけるドル高の一服、米国株式市場の反発も、値上がり要因となった。11月限の終値は前日比4.14ドル高の83.63ドル。

4日は、OPECプラス会合の観測記事が、さらに、200万b/dの減産も検討と報じたことから、先行き需給の引き締まり感が意識され、続伸した。11月限の終値は前日比2.89ドル高の86.52ドル。

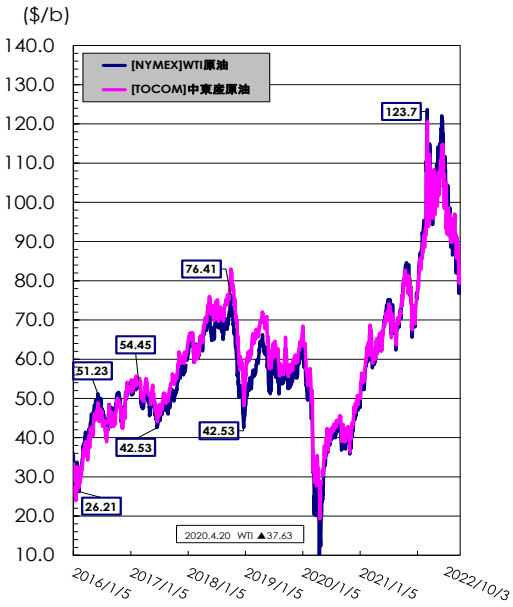
5日は、ウイーンで2020年3月以来対面開催されたOPECプラス合同閣僚監視委員会（JMMC）で、原油価格水準を維持するため、11月の産油量を200万b/d削減すると合意されたことから、3日続伸した。2020年5月からの970万b/d減産以来の大幅減産決議であったが、事前観測の範囲内で市場では織り込み済みとの評価もあった。米国の先週末石油在庫の取り崩しも上昇要因。11月限の終値は前日比1.24ドル高の87.76ドル。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場（11月渡し）は、9月22日～28日の間、85.20～90.70ドルの範囲で推移した。9月29日88.50ドル、30日88.00ドル、10月3日86.30ドル、4日88.60ドル、5日90.80ドルで推移した。

為替は、9月22日～28日の間、144.02～144.73円の範囲で推移した。9月29日144.34円、30日144.81円、10月3日144.89円、4日144.72円、5日143.95円で推移した。

そのような中で、10月3日時点の価格は、ガソリンが前週比0.4円の値下がり、軽油も同0.5円の値下がり、灯油も5円の値下がり（18リットルベース）であった。ガソリンは3週連続の値下がり、軽油も3週連続の値下がり、灯油は2週ぶりの値下がりであった。ガソリンの全国平均価格は169.1円と、引き続き、燃料油価格激変緩和対策が発動され、次週の補助金の支給額は33.8円となった。

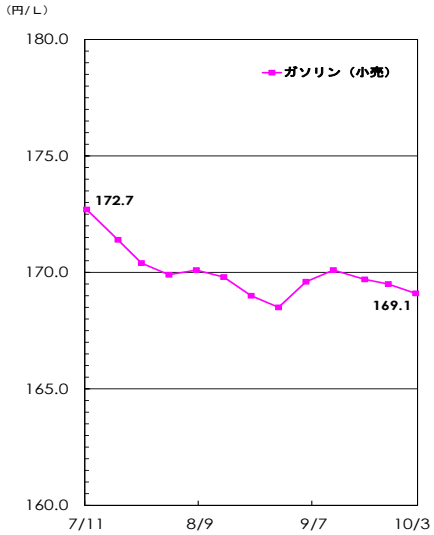
原油			今週		前週比	前年比
需給	原油処理量	（千kl）	9/25 ～ 10/1	2,909	▲ 31	▲ －
	トッパー稼働率	（%）	〃	76.0	▲ 1.2	▲ －
	原油在庫量	（千kl）	10/1	10,994	▲ 815	▲ －
価格	中東産原油(TOCOM)	（$/bbl）	10/3	83.71	▲ 3.37	▲ 8.1
	WTI原油（NYMEX）	（$/bbl）	10/3	83.63	▲ 6.92	▲ 6.0
	原油ＣＩＦ単価	（$/bbl）	9月上旬	112.03	▲ 0.30	▲ 38.17
	①原油CIF単価	（¥/kl）	〃	95,977	▲ 1,414	▲ 44,933
	②ドル換算レート	（¥/$）	〃	136.21	▼ -1.64	▼ -26.34
	外国為替ＴＴＳレート	（¥/$）	10/3	145.89	▼ -0.87	▼ -33.90



（単位：千kl、円/㍑）

ガソリン			今週		前週比	前年比
需給	生産		9/25 ～ 10/1	762	▲ 22	▼ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	684	▼ -134	▼ –
	輸出		〃	75	▲ 63	▼ –
	在庫		10/1	1,511	▲ 3	▼ –
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	9/27 ～ 10/3	74.0	▼ -1.3	▲ 4.5
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/27 ～ 10/3	78.2	▼ -0.1	▲ 8.8
		(TOCOM/中部)	10/3	73.4	▼ -1.0	▲ 3.4
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	10/3	169.1	▼ -0.4	▲ 9.1

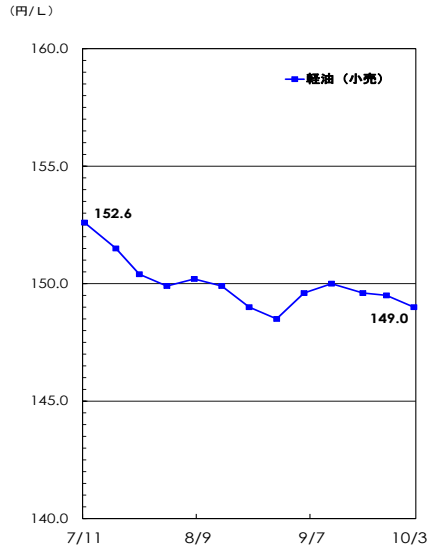
※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㍑）

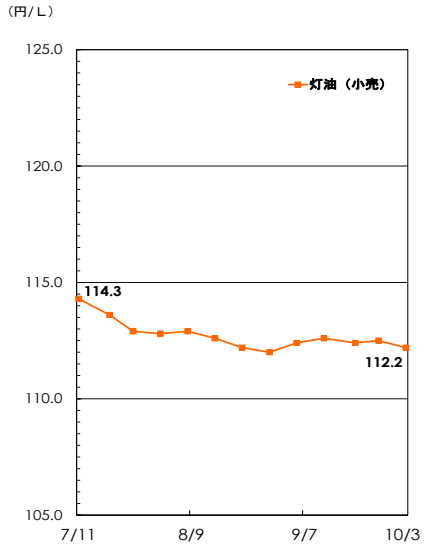
軽油			今週		前週比	前年比
需給	生産		9/25 ～ 10/1	790	▲ 80	▲ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	594	▲ 68	▼ –
	輸出		〃	268	▼ -36	▲ –
	在庫		10/1	1,229	▼ -72	▼ –
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	9/27 ～ 10/3	75.7	▼ -0.3	▲ 4.5
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/27 ～ 10/3	77.3	▼ -0.5	▲ 5.5
		(TOCOM/中部)	10/3	–	–	–
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	10/3	149.0	▼ -0.5	▲ 9.1

※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㍑）

灯油			今週		前週比	前年比
需給	生産		9/25 ～ 10/1	176	▲ 27	▼ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	67	▼ -16	▼ –
	輸出		〃	0	➡ 0	➡ –
	在庫		10/1	2,283	▲ 108	▼ –
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	9/27 ～ 10/3	76.6	▼ -0.8	▲ 6.2
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/27 ～ 10/3	81.0	▲ 0.5	▲ 13.0
		(TOCOM/中部)	10/3	76.8	▼ -0.2	▲ 8.3
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	10/3	112.2	▼ -0.3	▲ 13.1



■ 関連情報

1　海外/原油

今週の石油先物市場は、前半、軟化し週末には80ドルを割ったが、週明けから一転、OPECプラス大幅減産観測から上昇した。WTI終値は9月29日81.23ドルから、OPECプラスが200万b/d減産を決めた10月5日には87.76ドルと回復した。

10月5日発表の30日時点の米国エネルギー情報局（EIA）の米国国内週間在庫情報は、原油在庫が前週末比140万バレル減（市場予想：同210万バレル増）と、予想に反する取り崩しであった。

EIAによると、10月3日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比7.1セント値上がりの1ガロン3.782ドル（145.6円/㍑）と2週連続の値上がりで、ディーゼル小売価格は、前週比5.3セント値下がりの1ガロン4.836ドル（186.2円/㍑）と5週連続の値下がりであった。

ベーカーヒューズ社によると、9月30日時点の米国内稼働石油掘削装置は前週比2基増の604基と3週連続の増加となった。

2　国内/製品需給　（1）出荷

石連週報によれば、2022年9月25日～10月1日に休止したトッパー能力は26.1万バレル/日で、前週に対して13.2万バレル/日増加した（全処理能力は344.0万バレル/日）。

原油処理量は290.9万klと、前週に比べ3.1万kl増加。前年に対しては18.2万klの増加。トッパー稼働率は76.0%と前週に対して1.2ポイントの増加、前年に対しては5.2ポイントの増加となった。

生産は前週に比べて全ての油種で増産となった。ガソリン/3.0%増、ジェット/24.8%増、灯油/17.9%増、軽油/11.3%増、A重油/32.6%増、C重油/164.0%増。今週のC重油の輸入は7.3万kl（前週比7.3万kl増）。軽油の輸出は26.8万kl（前週比3.6万kl減）。

出荷（輸入分を除く）は前週比でジェット、軽油、A重油、C重油が増加、その他の油種で減少した。前年比ではジェット、A重油、C重油が増加し、その他の油種で減少した。ガソリンの出荷は68.4万kl（対前週16.3%減）と3週振りに減少した。ジェット8.3万kl（対前週70.8%増）、灯油6.7万kl（対前週18.7%減）、軽油59.4万kl（対前週12.9%増）、A重油17.1万kl（対前週15.1%増）、C重油26.6万kl（対前週54.0%増）。

（単位：千KL）

	今週 (9/25 ~ 10/1)	前週 (9/18 ~ 9/24)	前週比	
ガソリン	684	818	▼ -134	(-16%)
ジェット燃料	83	48	▲ 35	(73%)
灯油	67	83	▼ -16	(-19%)
軽油	594	526	▲ 68	(13%)
A重油	171	149	▲ 22	(15%)
C重油	266	173	▲ 93	(54%)
合　計	1,865	1,797	▲ 68	(4%)

※今週出荷量＝（前週末在庫＋今週生産＋今週輸入）－（今週輸出＋今週末在庫）

2　国内/製品需給　（2）在庫

10月1日時点の在庫はガソリン、灯油、A重油、C重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはA重油が増加となり、その他の油種で減少となった。

ガソリンは151.1万kl、前週差0.3万kl増。前年に対しては9.4万kl少ない。

灯油は228.3万kl、前週差10.8万kl増。前年に対しては25.6万kl少ない。

軽油は122.9万kl、前週差7.2万kl減。前年に対しては31.1万kl少ない。

A重油は73.1万kl、前週差0.9万kl増。前年に対しては0.9万kl多い。

C重油は178.2万kl、前週差13.3万kl増。前年に対しては16.9万kl少ない。

（単位：千KL）

	今週 (10/1)	前週 (9/24)	前週比	
ガソリン	1,511	1,508	▲ 3	(0%)
ジェット燃料	828	872	▼ -44	(-5%)
灯油	2,283	2,175	▲ 108	(5%)
軽油	1,229	1,301	▼ -72	(-6%)
A重油	731	722	▲ 9	(1%)
C重油	1,782	1,649	▲ 133	(8%)
合　計	8,364	8,227	▲ 137	(1.7%)

3　国内/製品卸売価格　（1）元売会社 仕切価格改定動向

9月27日～10月3日のドル建て指標原油価格は、前週比値下がり、為替レートの円安がこれをわずかに相殺したが、元売会社の原油コストは、2.5円値下がりしたものと見られる。

上記コストダウンに先週の補助金額35.7円を加えたコスト上昇額33.2円に、補助金33.8円が支給されることから、次週（10/6～10/12）の元売会社の実質的な卸価格は0.6円の値下げとなった模様。

3　国内/製品卸売価格　（2）業転価格・先物価格動向

9月27日～10月3日の製品スポット市況は、9月20日～26日平均と比べ、先物の灯油の値上がりを除いて、他の全ての取引・油種で値下がりした。

直近週（9/27～10/3）の陸上スポット価格平均値は、前週（9/20～9/26）比で、ガソリンは1.3円の値下がり、灯油は0.8円の値下がり、軽油は0.3円の値下がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週（9/27～10/3）に、前週（9/20～9/26）比で、ガソリンは1.8円の値下がり、灯油は0.3円の値下がり、軽油1.1円の値下がりだった。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは0.1円の値下がり、灯油は0.5円の値上がり、軽油は0.5円の値下がりだった。

（RIM）　（単位：円/㌔ℓ）

[陸上ローリー 4地区平均]		今週　(9/27 ~ 10/3)	前週　(9/20 ~ 9/26)	前週比
スポット価格	レギュラー	74.0	75.3	▼ -1.3
	灯油	76.6	77.4	▼ -0.8
	軽油	75.7	76.0	▼ -0.3

（TOCOM）　（単位：円/㌔ℓ）

[期近物/終値〔平均〕]		今週　(9/27 ~ 10/3)	前週　(9/20 ~ 9/26)	前週比
先物価格	レギュラー	78.2	78.3	▼ -0.1
	灯油	81.0	80.5	▲ 0.5
	軽油	77.3	77.8	▼ -0.5

※上記価格は税抜き価格

参考値　（9/27～10/3実績値）　（単位：円/㌔ℓ）

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -1.3	▼ -0.1	▼ -0.7
灯油	▼ -0.8	▲ 0.5	▼ -0.2
軽油	▼ -0.3	▼ -0.5	▼ -0.4
A重油	▼ -0.5		

（出所）現物：　RIM社陸上ローリー4地区平均価格
（千葉・川崎・中京・阪神）
先物：　TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4　国内/製品小売価格

10月3日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.4円安の169.1円、軽油も同0.5円安の149.0円、灯油も18㌔ℓベースで同5円安の2,020円（1㌔ℓベースでは同0.3円安の112.2円）。ガソリンは3週連続の値下がり、軽油も3週連続の値下がり、灯油は2週ぶりの値下がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは3県、横ばいは8県、値下がりは36都道府県だった。全国最安値は宮城県の160.9円、その次は埼玉県の161.2円であった。他方、最高値は長崎県の182.3円だった。最も値上がりしたのは福島県（前週比0.5円高）、横ばいは長野県等8県、最も値下がりしたのは大分県（同1.7円安）だった。

次回調査時（10/11）のガソリンの小売価格は、小幅な値下がりが予想される。

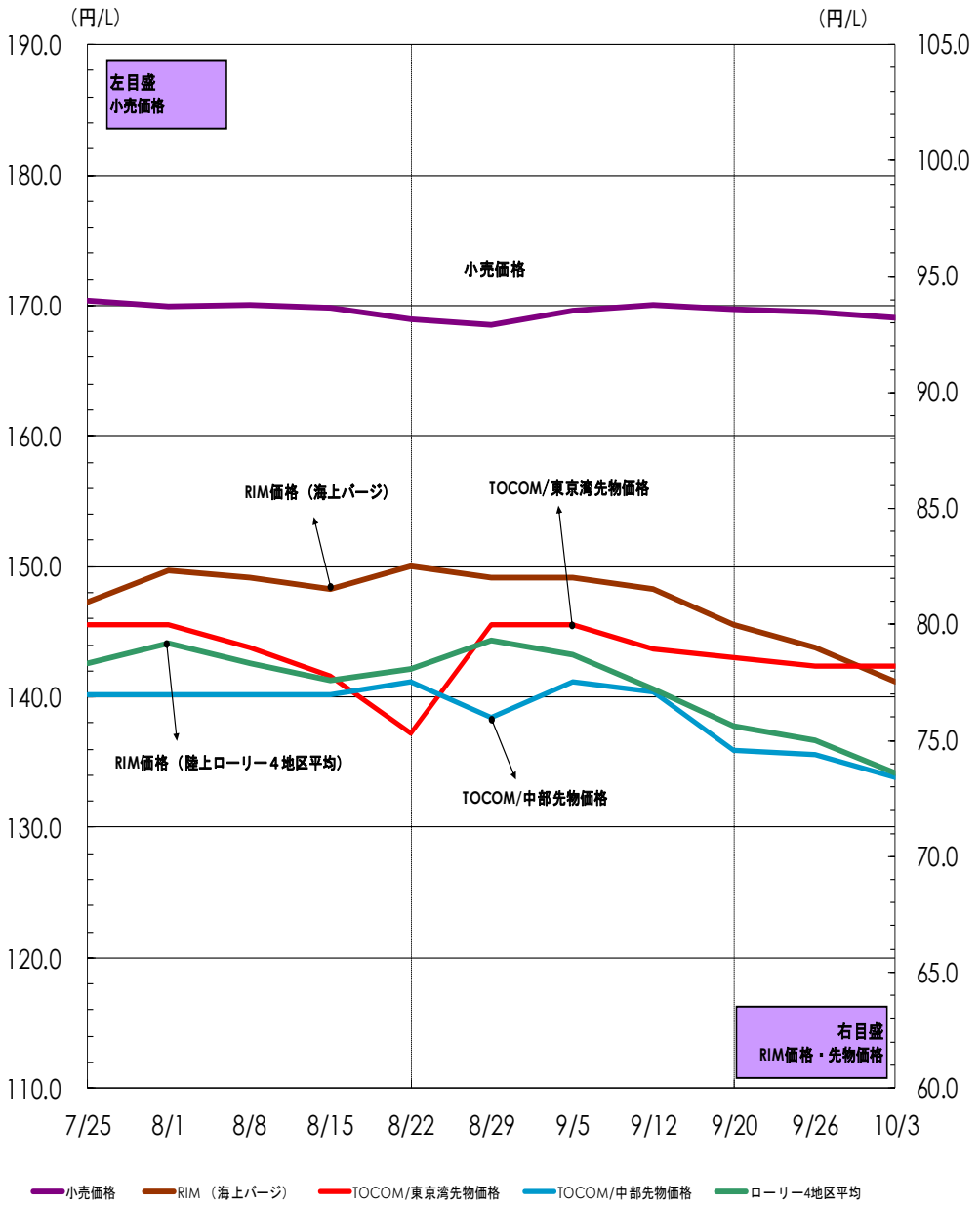
（単位：円/㌔ℓ）

（資エ庁公表）[週動向]		今週　(10/3)	前週　(9/26)	前週比	直近高値	
小売価格	レギュラー	169.1	169.5	▼ -0.4	08/8/4	185.1
	灯油	112.2	112.5	▼ -0.3	08/8/11	132.1
	軽油	149.0	149.5	▼ -0.5	08/8/4	167.4

※ 現金一般価格の全国平均値（消費税込み）
07年4月以降 2,000店舗を対象。
直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2022/7/25　～　2022/10/3)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ（https://oil-info.ieej.or.jp）にも掲載しています。
次回（2022第27号）の公表は、10/14（金）14:00 です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層（特に給油所経営に携わる方々）から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈 石連週報 〉
石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈 WTI原油、中東産原油 〉
WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange：NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所（The Tokyo Commodity Exchange：TOCOM）中東産原油の期近物・終値を採用。　※「二番限（翌月限）」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate：中値）を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】
元売仕切価格は、元売会社（一次卸）と系列特約店など（二次卸）との間で売買される卸価格。
元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈 RIM業転 〉
国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社（RIM）「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用（いわゆる4RIM価格とは異なる）。

⑤【国内製品・先物価格】〈 TOCOM〉
TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格（平均値）、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格（平均値）。

⑥【国内製品・小売価格】〈 週動向 調査〉
約2, 000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用（資エ庁公表）。原則として、毎週（月）時点の価格を調査し（水）14：00に公表（資源エネルギー庁ーHPに掲載）。